

第3回 立野小学校 授業研究会

講師

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官・学力調査官				
初等中等教育局 教育課程課	教科調査官	有本 淳	先生	
玉川大学教育学部	客員教授	八嶋 真理子	先生	
横浜市立東市ヶ尾小学校	校長	後明 好美	先生	
横浜市立小机小学校	校長	鈴木 康史	先生	
横浜市立田奈小学校	前校長	酒井 浩明	先生	

授業者 1年3組 渡邊 絵里子 生活科「はなとなかよしだいさくせん」



自分で育てる花を決め、お家の人の力をかりながら植木鉢を準備しました。そして種をじっくりと観察し、自分で種を植え、植木鉢の置き場所を決め、実際に植物と触れ合っていく中で試行錯誤を繰り返しました。植物を育てることを通して、自分でやりたいことは自分で決定することができることやたくさん触れ合って観察をして植物となかよしになると、植物がより元気になることを学習しました。子どもたちは、植物となかよしになりながら、植物も私たちと同じ命をもっていることやその大切さに気付きました。また、友達の育てている植物と自分の育てている植物のちがいを探すことができました。

授業者 2年2組 湯澤 真理子 生活科「立ののまちをしょうかいしよう」



まちたんけんで商店街へ行ったことを振り返り、発見したことや分かったことを「立野のまち発見ニュース」新聞にまとめ、友達に知らせることを通して、まちへの思いを深めていく授業をしました。

「トキワ鮮魚店では、魚を切る包丁を見せてもらったよ。大きくていろんな種類があつてびっくりしたよ。」「郵便局の局長さんは、やさしく教えてくれて嬉しかったよ。カレーライスが好きなんだって。」「さゆり堂の社長さんや町会長さんは、昔の大和町のことに詳しくて、写真を見せてくれながら、いろいろ話してくれたよ。二人とも立野小学校の出身なんだって。」と子どもたちが発見したことを発表しました。

講師の先生方からは、まち探検に主体的に取り組み、お店の商品だけではなく、お店の人にも興味をもって関わっていったことが良かったとお話いただきました。

授業者 3年2組 丸 智 理科「身の回りの生物」



多様性と共通性の考え方を働かせるために、ヒマワリとホウセンカの差異点や共通点を比較しながら、成長の様子を調べてきました。茎や葉は観察できるけど、土の中はどうなっているのだろうかという疑問からヒマワリやホウセンカの根の様子を予想し、じっくり観察する授業を行いました。

「一本の根から何本も根が出てる!」「茎の近くの根は太いけど、下の方はだんだん細くなっている。」「根の長さは草丈と同じくらいある。」などと、虫眼鏡で詳しく見たり実際に触ったり、長さを測ったりしながら根の様子をイキイキと表現する姿が見られました。

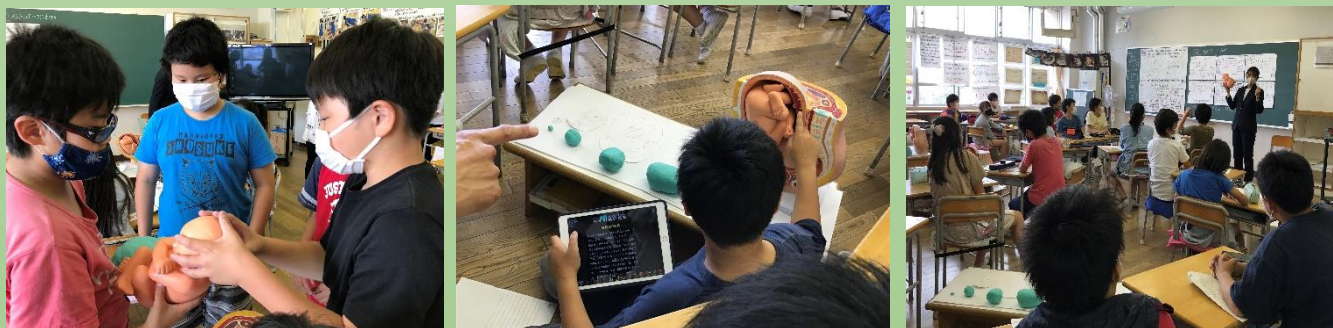
講師の先生からは、自分の予想を基に観察する視点を明確にして観察することができていたとお話しいただきました。

授業者 4年3組 大原 由美子 理科「電流の働き」



乾電池の向きを変えると、モーターの回転の向き（風の向き）が変わるという気付きから、乾電池の向きや回路を流れる電気の流れが回転の向きと関係しているのではないかと問題を見いだしました。そこで、本時では、乾電池の向きを変えると電流の向きは変わるのか、簡易検流計を使って調べました。予想では、モーターの回転の向きと乾電池の向きを関連付け、電流の向きに着目したり、見えない電気の流れのイメージを図で表したりしながら、自分の考えを友達に分かりやすく説明しました。実験結果では、検流計の針の振れ方はどの班も同じになり、「乾電池の向きを変えると電流の向きは変わる。」と結論付け、「電流の向きが変わるから、モーターの回転の向きも変わる。」「電気はプラス極から出て、マイナス極に戻る。」と考察している姿が見られました。

授業者 5年1組 森田 千智
理科「動物の誕生」



人は生まれるまでの間、お腹の中でどのように変化するのか、資料で調べたことを基に考察し、自分の考えを表現して問題解決する授業をしました。

感想では、「赤ちゃんはお腹の中で、魚や恐竜などをたどって人の形に進化している。もはや赤ちゃんではなく、赤さんです。」と、形と大きさの変化の数値を読み取って考えている姿がありました。

講師の先生からは、調べた結果からより実感できるように、様々な方法を試して知ること、関係が深まり、「赤ちゃん」から「赤さん」へと見方が変わっていた姿がよかったとお話いただきました。

授業者 6年3組 寺崎 武士
理科「便利な生活？美しい地球？未来につなげるのはどちら？」



目に見えず、実体をとらえることもなかなか難しい…。それでいて、普段、何気なく使用しているのに使用していることさえ感じることができない電気。その電気によって、自分達の生活が支えられていることや人間の文明が発展してきたことを実感する学習を計画しました。日本の電力を支えている発電方法には限りがあり、これから自然の力を利用したクリーンなエネルギーに発電方法を変換していかなければならないことや、自分達の電気の利用の仕方を見直し、無駄な電気をどのくらい削減できるか、という課題についても考えました。

「排水溝に流れる水の力で発電する方法はどうか。」「火力を減らしたいけど、生活の維持も大切。かなり難しいし悩ましい問題だ。どうやったらよいかいまだに考えはまとまらないけど、考える時間も大切。」という声が聞かれました。

講師の先生からは、子ども達は理科に関する目も心も育ってきているからこそ、より本時で身に付けるべき力を意識した授業づくりを行っていくことが大切であるとお話いただきました。